

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079300184		
法人名	社会福祉法人添寿会		
事業所名	グループホーム添寿の里		
所在地	福岡県田川郡添田町大字庄1123-1		
自己評価作成日	平成29年7月12日	評価結果確定日	平成29年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年8月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

馴染みのある場所での散歩や買い物、お花見や紅葉見物、外での食事会、入居者の能力に応じた家事や趣味の提供等、生きがい・やりがいのある生活と笑顔と笑い声の絶えないサービスの提供を目指している。又、これまでに築いてきたご家族との信頼関係を大切にし、協力を得ながら施設運営を行っている。運営推進会議は偶数月に行い、毎回違うご家族、地域代表の方、役場、包括支援センターの方を交え情報交換や施設運営について話し合いを行っている。特に6月12月の運営推進会議(家族会)では殆どの御家族が参加され活発な話し合いがおこなわれている。会議後の食事会・アトラクション(6月)は皆様大変楽しみにされている一大イベントで、入居者の皆様・御家族とも大変喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地の中で特養、老健と併設する「添寿の里」は2ユニット型グループホームで、平成16年に開設された。地域にはなじみのある岩石山を窓外に望み、住み慣れた町で暮らし続けたいという住民の要望に応じている。行事には特に力を入れて取り組んでおり、季節の花見や、四季折々の自然鑑賞は計画された行事以外にも柔軟に日々実施されている。普段行けないようなところにお連れして刺激にもなっており喜ばれている。「あんぎにのんきに」という理念のとおり、入居者にゆったり過ごしてもらいたいという思いがあり、おいしいお米や大きさにゆとりのあるベッドなど、理念の実現を目指している。系列施設とも慰問やイベント、研修などで交流を持ち、一体的な運営がなされている。地域の中心となる複合型施設であり、今後も地域の認知症の方を支える活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関横の壁に掲示し、常に職員の眼に入るようにして意識付けを行ない、朝礼時には理念を唱和し一日の決意としている。又、新人のオリエンテーションでは必ず説明し職員の心構えを説いている。	法人理念とは別に、GH独自の理念が開設当初から作られており「あんきにのんきに」という言葉を中心に、ゆつたりのんびりした生活が送れるように心がけている。笑顔の朗らかなイラストと共に、暖かみのある筆文字で書かれており、職員も理念に馴染みを持って浸透も進んでいる。毎朝の唱和も担当を持ち回ることで、それぞれの理解を進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神幸祭では子供会の神輿の訪問をお願いし、3神輿に増やした。おかげで、その地区に居住していた入居者の方との交流が増え皆様大変喜ばれている。又、添田町のイベントや添寿会の夏祭りでの発表、文化祭での作品発表や裁縫教室の活動を通じ交流を深めている。	法人関連施設合同の夏祭りがあり、敷地を開放して地域の方も大々的に招いて行っている。町内のお祭りに出るお神輿の周回コースにもいれてもらい、顔なじみの知人と交流する機会にもなり喜ばれている。町の行事にも入居者と一緒に参加しており、相互交流に取り組む。地域ボランティアや出し物の慰問に来られることも多い。	地域に対しての情報発信の取り組みとして、認知症啓もうの活動にも、法人関連施設や他事業所と共同して取り組みが検討されることに今後は期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設訪問の受け入れや認知症の相談に努め、地域の方々との係りを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常の運営推進会議では、10名程度で話し合いを行っているが、6月・12月の会議では殆どの御家族が参加する50名程度の会議となり、年度の活動計画や半年間の活動状況、御家族からの希望や要望の確認、外部評価の公表やアンケート調査を行い、より良い施設サービスの提供につなげている。	当初から隔月開催で定期的にしており、60回を超えた。役場、地域包括、地域代表、家族などが参加され、ヒヤリハット報告も含めて情報開示している。参加者から情報提供や意見を頂くことも多く、要望なども上がっている。ご意見に対してその場の回答が難しいものも改めて掲示板などで通知もしている。家族会との同時開催時は食事会、アトラクションと合わせて行い、日頃の様子を見てもらっている。	運営推進会議を知っていただく取り組みとして、議事録を閲覧公開したり、郵送報告するなどして行ってみてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	知りたい情報を添田町役場・添田町地域包括支援センターに電話や訪問で確認したり、空室ができ埋まらない時には協力をお願いしたり、逆に急な入所希望の相談があった時にはこちらの知りえる情報を伝えるなどの協力体制が出来ている。	運営推進会議には毎回役場の職員に参加してもらっており、その際に情報を頂くことも多い。介護更新や、会議案内などある時も気軽に訪問しており、担当者と同様にもなって相談事もしやすい。空き情報も随時伝えており、役場や地域包括から入居紹介を頂くこともある。夏祭りは役場にも案内して参加してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除のマニュアルを含めた、マニュアルの綴りを両館に整備し閲覧できるようにしている。又、入居者の安全を思い行っていることでも、身体拘束にあたることがあることを、社内研修でも繰り返し勉強するなど職員への意識付けを行なっている。	玄関は日中施錠しておらず、センサーによって入室管理をしている。玄関は自動ドアだが、電源を切っており手動での開閉しかできないようにしている。見守りによって対応しており、今までに離設の事故もなかった。原則的に身体拘束もしない方針で拘束事例もない。	内外の研修によって身体拘束廃止関連の学習機会を定期的に計画立てて行われることが望まれる。

H29自己・外部評価表(GH添寿の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設での虐待の報道がなされた時には、朝礼・終礼で話しをし、職員に注意を喚起している。又、入居者への言葉掛け一つでも、言葉の暴力・言葉による虐待があることを伝え、注意をしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設で支援事業や成年後見制度を活用されている方はいないが、相談を受ける事もあるので社外研修で得た情報は、情報提供出来るだけの知識として知る必要があり、時には勉強会を行なっている。	現状も今までにも、制度利用をされた方はいない。以前、家族会の場でも成年後見制度に関しての説明を行った。今入居検討中の方が制度利用を考えており今後の制度理解の必要性を感じている。今年4月に内部研修によって制度理解を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に準備をして頂くもの等説明するとともに、契約時は契約内用を確認し、疑問に答え不安を与えないように配慮している。解約時には、次ぎの生活の場への移動がスムーズに進むよう協力している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱によるクレームの収集、運営推進会議での意見や要望の確認、12月の運営推進会議でのアンケート資料を施設運営に反映している。又、会議で即答できない事項については、文書にて掲示板や6月12月の運営推進会議意義の場で公表している。	年2回、6月12月は運営推進会議を兼ねて家族会を行っており、ほぼ全家族が参加されている。意見も活発に出され、家族同士の横のつながりも強い。面会機会も多く、毎日来る方もおり、遠方の方でも家族会の際には来られている。意見箱もあるが直接伺うことが多い。12月の家族会時にはアンケートも配布し、匿名でご意見も伺い、運営に生かしている。	表面化しづらい要望や意見に対して、アンケートや個別の面談によっても聞き取っているが、改善がすぐには難しい要望に対して、引き続き事業所内での情報共有、家族との相互共有を進めることによって改善に取り組みされることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3月の職員会議で次年度の行事や、必要な物品の購入等の意見を出しあい、その時の状況や予算的なものを考慮し、施設長に了解を得るかたちで、施設運営に反映できる体制を作っている。	毎月ユニットごとの班会議があり、入居者の情報やケアに関しての話し合いがなされる。必要な物品の手配に関しても役職によって権限があり、手配されている。全職員参加の職員会議もあり、情報共有や意見提案もそれぞれでされている。賞与の際の個別面談や、日頃も必要な時には施設長と相談することもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者と連絡を取り合いながら、職員の意見や提案を把握すると共に、勤労状態を把握し、勤務時間や給与の見直し、頑張っている職員へのねぎらいの声掛けを行なっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	本人のやる気と、お年寄りが好きである事を基準に採用を行なっている。年齢や性別により採用の対象外とすることは無い。採用した職員には、研修や自分のスキルアップの為の講習受講の希望の申し出があれば、配慮をしている。	男性は管理者のみで、職員は女性の30代から70代までの年代層だが、比較的高年齢層の職員が多い。和気あいあいとした雰囲気でお互いが協力しながら業務に取り組んでいる。休憩時間や休憩場所も確保されており、メリハリのある勤務を意識している。	外部研修の案内や学習機会を増やし、スキルアップにも積極的に取り組んでいかれてはどうか。可能な範囲で情報を収集し、研修参加などなされていくことに期待したい。

H29自己・外部評価表(GH添寿の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重の為に、認知症であっても、トイレ使用時や入浴時に人間としての尊厳を傷つけない教育と啓発を行なうとともに、そういった場面に遭遇したときには、注意と指導をおこなっている。	関連施設との合同研修の中で外部講師を招いて、人権関係の内部研修を行った。昨年ケアマネの更新研修の中で人権学習を行っているが内部での伝達などはなかった。入居者の人権尊重には常に意識しながら取り組んでいる。	事業所としての人権教育・啓発活動として、地域の人権関係の研修や、関連団体の資料回覧、DVD視聴などによって学習機会がもたれることにも期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修・施設内勉強会を通じて、力量を高め実践に生かせるよう指導している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所とは勉強会や行事を通じ交流し、情報を共有している。又、福智町のグループホーム協議会に参加し、情報の共有や勉強会の参加を行なっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の悩み・不安・要望があれば、話を傾聴しこれらの問題を解決できるよう配慮し、心配の要らないことを伝え、信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の段階より、不安や質問に答え、家族の要望を傾聴し、よき相談相手であるよう努めている。又、サービスの提供を始める段階でも同様に信頼関係を構築している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、御本人と御家族がその時一番必要としている支援は何かを見極めるよう話を傾聴し、アドバイスを提供し、本人にとって一番良いサービスは何かを説明し、了承を得ている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係ではなく家族と考え、利用者本人が出来る事の支援を行ない、お互い協力しながら、励ましあい共に喜怒哀楽を共有し共同生活を送っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支えていくには施設だけでは限度もあり、外出や外泊、病院受診などで御家族の協力を得るなど施設の運営に携わっていただいている。		

H29自己・外部評価表(GH添寿の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家庭と同じような雰囲気味わえるよう、知人が訪ねてきたときにはお茶やコーヒーの接待を行ない、帰りしなには今後も訪ねていただくようお願いしている。又、馴染みの場所への買物や地域の行事への参加等の支援にも努めている。	訪ねやすい雰囲気づくりを目指して、来訪者にお茶などを出して歓迎している。元々近隣からの入居者も多く、馴染みのスーパーに買い物に行って、そこで知人に会うことも多い。家族の面会も多いが、知人の来訪もあり、夜も20時までは面会を受け付けている。毎週手芸教室も隣で開催しており、そこでも交流機会を作っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でトラブルが発生したときには、当事者の話を傾聴し火種を残さぬよう問題解決に努めると共に、レクリエーションや行事を通し仲良くできる環境作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	訪問したりご家族との電話などにより、状況確認や不安事の相談に乗ったりして、不安を解消し安心していただき、関係を継続する支援を行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族からの要望や本人の希望を聞き、アドバイスを加えながら本人にとって一番良い支援を模索し支援を行なっている。又、意思疎通の困難な利用者には、より多くのコミュニケーションをとったり、日常生活の中の気づきをプランに反映するよう努力している。	アセスメントは主に各ユニットの計画作成担当者が主に受け持ち、基本情報は介護更新時、ケアチェック表は3ヶ月での見直しを行っている。見直し時にはカンファレンスなどで現場からの情報も共有し、取り入れる。意思疎通の難しい方には、好きな事を聞いたり、働きかけて反応や表情を見ながら意向の把握につなげている。	今年から給付やプラン管理に電子ソフトを導入している。新たな様式の導入により、アセスメントやフェイスシートなどの改良や、取り組みが徐々に広まり、より詳細な情報や思いの引出しがなされていくことが期待される。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族からの情報や関係する諸機関からの情報収集により、本人の生活歴や暮らしぶりの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの情報、諸機関からの情報提供を参考にするとともに、利用者と共に生活していく中で、残存能力の確認をしながら利用者個々の心身の状態の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や御家族の意向を反映し、時には病院や諸機関の情報を得る等して、その人らしい生活が送れるよう、職員間で意見やアイデアを出し合い、情報の共有をし、現状に即した介護計画を作成し、見直しを行いながらサービスを提供している。	ケアプラン作成、モニタリングは主にケアマネがしており、プラン目標ごとに毎日の実施チェックも行っている。毎日の実施と特記を元にして3ヶ月ごとのモニタリングもしており、プランの見直しにもつなげている。担当者会議には家族にも参加してもらい、意向を取り入れている。	ご家族との情報の共有の手段として、モニタリング実施表を使ってプラン目標への取り組みをお伝えしたり、写真付きのお便りや、日頃の様子のお写真をお見せしたりしてはどうだろうか。

H29自己・外部評価表(GH添寿の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日・ケース記録・バイタルチェック表・水分摂取チェック表にて健康や精神面の記録や管理をすると共に、支援する上での工夫等は申し送りノートで情報を共有し、入居者のケアに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の意見や要望を可能な限り聞くように心掛けており、お互いが協力し、いつでも話し合える体制をとりつつ、コミュニケーションを取り合いながら支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役場・地域包括支援センター・運営推進会議からの情報をもとに、地域のイベントに参加したり地域ボランティアを活用し、利用者が楽しく活力のある生活が出来る様支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門性のある病気については掛かりつけ医を念頭に対応し、問題が無ければ嘱託医への掛かり付け医の変更をお願いし、承諾を得、健康管理を行い、診療時間外にもDrに電話による指示を仰ぐ等、健康管理と24時間体制の緊急対応が整っている。	提携医の往診が毎週木曜日にあり、専門医を希望される場合は基本的には家族支援、どうしてもいけない場合などに事業所から通院支援している。関連施設の看護師の受け入れもあり、健康管理もやっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の生活の中での変化の状況を記録したバイタルチェック表・ケース記録表を看護師に提示・報告し、適切なアドバイスを受けられるように協力し支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な限り様子伺いを行い、話をして安心して治療に専念していただけるように配慮を行っている。又、治療の経過にあわせ本人がどのような状況にあるのかを、ケースワーカーやドクターと意見交換を行い、寝たきりにならないよう早目の退院を目指している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明は行っているが、現実問題として重度化した場合には家族と介護職員・ケアマネージャーを交え、掛かり付け医のアドバイスを受けながら、入居者本人にとって何が一番良いのかを話し合い、決定事項がスムーズに進むように支援している。	看取り同意書をを定めており、今までにも複数名の看取りを行ってきた。出来る限りの支援を行う方針だが、常時医療行為が必要な方などへの対応は難しく、積極的な受け入れは行っていない。重度化の際には改めて主治医と家族との相談の上対応を考える。	

H29自己・外部評価表(GH添寿の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	朝礼や終礼、職員会議の時に、事故・ヒヤリの報告をし、対応の反省を行い危機感を共有し、再発する事の無いよう注意をしている。又、AEDを設置し緊急時に対応できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練と9月には防災訓練を実施している。毎回、違った設定で訓練を行い、色々なケースに対応できるように訓練を行っている。又、近隣には施設が多く協力体制を作っており、火災通報装置も自動で他施設に伝わるようになっている。	昼夜想定年2回の火災訓練とは別に、防災訓練を行っており、設備会社に立ち会ってもらっている。消防署の立会いはないが、毎回の報告を行っている。備蓄物の確保もしており、期限確認をして古いものは消費しているが、調査時は、補充の検討をしている段階だった。通報装置は系列施設で共有している。	地域や家族への案内や参加がなされていないので、消防署の立会いなどがなされたときに、訓練参加の呼びかけを行ってはどうだろうか。また、防犯訓練の意識の高まりもあり、必要性に関して行政などと相談、検討されることにも期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であり、その方の人格を傷つける事のないよう注意し支援をしている。認知症であってもプライドや人間の尊厳を喪失していない方も多く、その事を理解して挨拶・言葉遣い・身だしなみ・態度・表情・言葉のイントネーションには注意を払い接するようになりに指導している。	法人グループの合同研修の中で、特に接遇には力を入れており、挨拶や笑顔、服装などに関する意識を高めている。トイレ利用時のプライバシーの確保に関しても管理者が注意を向け、言葉かけなどで気になることがあった時も職員に対してその都度指導もしている。お便りなどの写真利用に関しても書面での説明、同意を事前に頂いている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し、その中で本人の思いや希望がないかを気づくように心掛けている。又、雑談やテレビを観ている時などふと観られる言葉や表情で、その方の思いや希望を察するよう気を配っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活をしていく中で、全てを本人の意のままに生活していただく事は無理と考えられるが、その時の体調や気分により、本人のペースや希望にあわせた支援が必要なときもあり臨機応変に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や御家族の意向に添い、美容室に定期的に通ったり、出張理容を活用している。特に、外出や行事のある時には、女性は全員お化粧をし、男女とも社会人として恥ずかしくない整容をするよう心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には、利用者と一緒に買物に出かけ、季節に応じた食材を購入し、入居者の希望するメニューで楽しく食事をされている。又、入居者の能力に合わせ、片付けや、テーブル拭き、お茶碗洗いを手伝っていただいている。又、年に何度か外食し、施設とは違った雰囲気での食事を楽しませている。	業者に委託して栄養士が管理するメニューと食材配達がほぼ毎日あり、新鮮な物を使って栄養バランスの取れた料理を提供している。菜園で獲れたものや差し入れなども利用して、ボリュームのあるメニューであった。調理は職員が中心に行うが、入居者にも出来る事は手伝ってもらい、一緒に買い物に行くこともある。職員も同じ物を一緒に食べており、食卓を囲んで和やかに楽しませている。嗜好の調査も行っている。	

H29自己・外部評価表(GH添寿の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー・刻み・普通食等本人の状態に合わせ加工し、栄養価・食事を考えバランスの取れた食事を提供し、摂取量をチェック表で確認している。又、水分の摂取量にも気を配り、水分摂取確認表に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に応じた声掛けや介助を行なう事で歯磨き・口腔内のすすぎを行ない、口腔内の清潔を保つと共に、入れ歯の洗浄や消毒等、入れ歯の管理に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個人の排泄パターンを把握し、その方は一日中オムツをしなければならないのか、この程度の声かけを行えば日中は布パンツとパットで生活できるのでは、夜間のみのおムツに出来るのでは等ケース会議を行い排泄計画を立て、排泄の自立に向けた支援を行なっている。	ユニットごとにそれぞれの排泄チェック表が一覧できるようにになっている。状態に合わせた下着の利用もチェック表などを元にしてユニットごとのミーティング後などに対応している。水分摂取には特に気を配り、便秘を減らし、自力排泄への取り組みを目指している。介助時も自尊心を損ねない声掛けをするよう心掛けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の観察・記録を行いながら、適度な運動を提供し、食事には繊維質の物を添え、排便が無い時は腹部マッサージを実施し冷水や牛乳を提供し、出来る限り気持ちの良い排泄が出来る様支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2~3日に一度の入浴希望が多く、最低週3日の入浴をして頂くよう、月・水・金組と火・木・土組とに分け入浴支援を行っているが、入浴拒否をされた時には翌日に変更したり時間を置くなど本人の意にそよう配慮し、気持ちよく入浴して頂いている。又、毎日入浴したい方には本人の希望にそっている。	入浴は個浴で、基本は午前中に行っており、現状では午後への対応は難しい。汚染があった際や必要な際には午後でも随時の対応を行う。浴槽の湯は溜め流して清潔に保ち、季節浴の楽しみなども提供している。ボディチェックの場としても活用し、記録にも残し、申し送りでも共有している。季節湯を提供したり、寒い時には脱衣室に暖房器具を設置したり、といった配慮も行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の動きや体調を把握し観察を行いながら、夜眠れない人には昼に多目の運動や散歩を行なったり、疲れている人には多目の休憩時間を設け、個々の利用者のその日の状態に合わせた支援を行なっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬時は〇〇さん〇月〇日朝など、薬に記載された事項を声に出して確認し誤薬を防ぎ、服薬チェック表の確認を行っている。又、利用者の症状変化が観られた時にはDrに報告する体制を整えている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字・裁縫・カラオケ等の趣味の面で気分転換を図れるよう支援をしている。又、家事・花の手入れ・草むしり等の作業にに生きがいを持っておられる方には、その方面でも気分転換をはかれる様支援している。		

H29自己・外部評価表(GH添寿の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物をしたい利用者には同行したり、施設の買物のお手伝いで外出して頂いている。又、お花・蛍・花火等、見物したい人を募集し、年間の行事計画以外の単発的な小規模な外出を行い支援している。	年間に定めた外出行事のほかにも、適宜予定外の外出も行って喜ばれている。敷地も広大なため、安全に散歩も楽しめる。少人数でのドライブも頻繁にあり、刺激になっている。家族が連れ出して外出したり、行事の際に一緒に行くこともある。一時帰宅や外泊も可能な方はされている。車いすの方も対応車両使用により、外出を楽しむことができています。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度自己管理できる利用者にはお買物の時にお金を所持していただき、職員立会いの上購入物の選定や支払いを行っていただく等の、買物の支援を行なっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の情緒の安定のために、用件を確認し、何時でも電話を使用できるようにしている。又、字を書ける利用者には年賀状・暑中見舞いの葉書を出せる支援を行なっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには季節のお花を絶えず飾り、季節に応じたディスプレイを行い、入居者や訪問客の目を楽しませるように配慮をしている。又、廊下には最近の行事のスナップ写真を掲示し、利用者が楽しめる環境創りを行なっている。他にも、食堂には利用者と協力して作成した季節に応じた作品を掲示して、和やかな雰囲気創りを行なっている。	玄関ホールは、季節ごとに浴衣や花嫁衣装などの飾りつけを職員が行っており、人目を引く。左右対称の2ユニットは、どちらも明るくゆったりとしたリビングでくつろぐことができる。入居者の作品や入居者の写真が飾られ、できごとを振り返ったりもする。不快なおい等もなく、和やかで落ち着いた空間が保たれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファやテーブルを設置し、仲の良い入居者同士で談笑したり、お茶を飲んだり出来るスペースを確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着いて生活できるように、収納可能な馴染みのある家具等を持参して頂き、御家族と本人の意向を踏まえ配置している。又、本人と御家族や孫などの写真を掲示できるように、各戸には掲示用のボードを備え付けいつでも写真や絵葉書などを貼り付け眺められるように配慮をしている。	居室はフローリングで、事業所の意向によりセミダブルの広めのベッドが各室に用意されている。他にテーブル・いす・クローゼットは事業所で提供、テレビや加湿器・楽器・写真など馴染みの品物を各入居者が思いのままに持ち込んでおり、居心地の良い空間ができ上がっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のお部屋入り口には、見慣れた動物の部屋名(東館)やお花の部屋名(西館)と自分の写真入の名札を掲示し、部屋を間違えないように配慮をしている。又、トイレやお風呂には、ドアにお風呂やお手洗いの室名表示を貼り付けトイレを探して徘徊したりする事のないように工夫をしている。		